

日に日に春は深まり、日差しにも一段と明るさが増してまいりました。この良き日に、本日、南砺市立井波中学校、第74回卒業証書授与式を挙行いたしましたところ、南砺市教育委員林様はじめ、日頃より、本校に多大のご支援をいただいております地域の方々、さらには、保護者の皆様方、多数のご臨席を賜り、盛大に祝っていただきますこと、誠に有り難く、感謝に絶えません。高い所からではございますが、厚く御礼申し上げます。

さて、69名の卒業生の皆さん、卒業おめでとう。ただ今、中学校の課程を修了したことを証明する卒業証書を一人一人に手渡しました。入学からの3年間、風雪に耐えながらも一致団結し、学習、生徒会活動、部活動等に誠実に取り組み、さまざまな徳を積み上げてきました。中でも今年度は、マスクを着用するなどの新しい生活様式が加わり、6月学校再開という前例なきスタートとなりましたが、体育大会の応援合戦にみられるように、最高学年らしいリーダーシップを発揮して後輩をまとめ、井波中学校の歴史に鮮明に残る1ページを記してくれました。ここで、卒業という晴れやかな門出にあたり、私から皆さんへ、はなむけの言葉を贈りたいと思います。それは「相手の心の痛みに寄り添える、思いやりの深い人になって欲しい」ということです。

リモートやオンラインなど、人との距離を置く場面や機会が多くなったり、ロボットや人工知能の利用が進み、人と人との交流における知恵や豊かな感情を得られにくくなった日常となりました。しかし、人は一人で生きていくことはできず、互いに助け合って行かなくてはなりません。人同士のつながりは永遠に欠かせないのです。このつながりを深めるために、お互いに完全には分かり合えないから相手を理解しようという気持ちを育むことが大事です。たとえ夢や願いが叶っても、たとえ失敗して落ち込んだとしても、自分の世界に身を置き続けるのではなく、周りの人たちの「苦しみや辛さ」を察しようとしたり、やさしい言葉をかけてあげようとしたりする心を忘れなければ、きっと信頼の絆づくりが進みます。心が離れやすく、差別や偏見が生じやすい世の中であるからこそ、自分勝手にわがままな考えに流されず、相手を思いやる気持ちを見失わないでください。

人生とは判断と決断の連続ですが、いかなる時代や社会が訪れようとも、人としてあるべき姿は、大きく変わるものではありません。皆さんには、井波中学校の校訓である「自ら進んで行い、やり遂げる 自主完遂（すい） 明るくほがらかで、おおらかな 明朗闊達（かつたつ） 飾り気がなく誠実で、心身共にたくましい 質実剛健」のもと、前例なき時代を力強く生き抜いた力と温かく素直な心が育っています。この力と心をより高め自らの手で輝かしい未来の扉を開いてくれることを信じています。

さて、保護者の皆様。立派に成長されたお子様を前に、さぞかしお慶びのことと存じま

す。教職員を代表いたしまして、お子様のご卒業を心からお祝い申し上げます。過去にこだわることなく、新たなる道を進むためのご支援とご指導を、今後ともよろしく願ひいたします。

再び卒業生の皆さん。どこで生きることになろうと母校はこの井波中学校であり、心のよりどころは、家族、この仲間、地域の方々、そして、井波中学校教職員一同です。井波の素晴らしい自然、文化、人の温もりを宝物としながら、二つとない尊い命を大事にして生きてください。徳の「思いやり」に関するポエムを紹介して、結びとします。

「相手の目で見たら どのように見えるだろう
相手の耳で聞いたら どのように聞こえるだろう
相手の心で感じたら そのように感じるだろう
いくら頑張っても相手の気持ちになれないし立場にもなれない
だけど相手を思いやる気持ちはきっと相手に伝わる 」

皆さんと出会い、共に乗り越えてきた令和2年度を、私は一生忘れません。ありがとう3年生。卒業生の前途に幸多かれと、心から心からお祈りし、式辞といたします。

令和3年3月16日
南砺市立井波中学校校長 河原 秀樹

